

がん診療 あさひ

15号

2024年9月
発行

～がんと診断されたり、治療を受けるときに、役立つ情報をまとめました～



AYA世代がん患者サポートチームスタッフ

AYA世代がん患者サポートチームのご紹介

AYAとは、アドレッセントAdolescent(思春期) & ヤングYoung アダルトAdult(若年成人)の頭文字をとった略であり、15～39歳までのことをアヤAYA世代といいます。

AYA世代がん患者サポートチームは、多職種で構成され、このAYA世代を中心に支援している専門チームとなります。患者さんやご家族は、がんと診断されてから治療中・後では、身体的・精神心理的・社会的・言葉では伝えられないようなところのつらさなど様々な悩みを抱えることがあります。さらにAYA世代特有の悩みといわれている、就学・就労・恋愛・結婚・出産・子育てなど、様々なライフイベントに沿った悩みもみられることがあります。AYA世代がん患者サポートチームは、多岐にわたる悩みに対して、個別性の高い支援を心掛けています。

チームによる支援をご希望される方は、主治医にご相談ください。

当院は、「地域がん診療連携拠点病院」「がんゲノム医療連携病院」に指定されています。

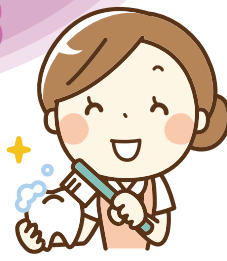


地方独立行政法人
総合病院 国保旭中央病院

〒289-2511 千葉県旭市イの1326 TEL.0479-63-8111(代) FAX.0479-63-8580

www.hospital.asahi.chiba.jp

わたしたち歯科衛生士は 口腔ケアでがん治療を サポートしています



その1 がんで「手術」を受ける方へ

手術の際にお口の中が不潔な状態だと、術後に肺炎を起こす可能性が高く危険です。お口を清潔に保つために口腔ケアはとても重要なのです。

当院で行っている、がん手術前後の口腔ケアをご紹介します。

術前

- 歯石除去
- 歯磨き方法のご指導
- むし歯・歯周病のチェック



手術に支障をきたす歯は歯科医師が手術までに治療します。

手術前日

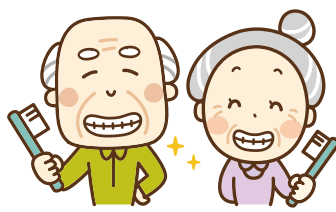
歯科衛生士がお口のすみずみまで清掃します。

手術当日

食事をしていなくても口の中には細菌が増殖しています。手術室に行く前にご自分でしっかりケアしましょう。

術後

歯科衛生士が口腔ケアをサポートします。



いざ手術となって慌てることのないように、日頃から歯や口の手入れをしっかりとっておきましょう。定期的に歯科医院を受診しておくことをおすすめします。

歯科衛生士 網中克恵

次号では、化学療法を受ける方の口腔ケアについてご紹介します。

読者アンケートへ ご協力ください

より良い紙面づくりのため、皆様のご意見・ご感想をお聞かせください。

右記QRコードからご回答ください。



がん患者さんの 症状に合わせた 食事のポイント

管理栄養士に聞きました



その1 ▶▶ 食欲が低下している時

【食べ方編】

- 以前に比べて一度に食べられる量が少ない場合には、1日3回食にこだわらず、食べられるときに食べるようにしてみましょう。
- 好きなものなど食べられそうなものがあれば、どんどん試してみてください。

【食事・間食の内容編】

- 食欲があつて、しっかり食べられる時には主食、主菜、副菜のそろったバランスの良い食事が望ましいですが、食べられる量が少なくなっている時には、主食と主菜の2つを組み合わせるようにして、エネルギー(カロリー)とたんぱく質を補うようにしてみましょう。

(例) お粥と漬物のみ → お粥に溶き卵を混ぜる など

→ たんぱく質の多い食品: 肉、魚、卵、大豆製品 他、乳製品

- 見た目食欲が減退してしまわないように、盛り付けは「少なめ・控えめ」を意識してみましょう。
- 間食内容も食事内容と同じように、果物+乳製品といった組み合わせや、栄養バランスの整った栄養補助食品などを活用してみてください。
- 栄養補助食品には医師から処方していただく薬科の栄養補助食品(エンシュア®、ラコールなど)と、お店やネットから購入が可能な栄養補助食品があります。薬科の栄養補助食品が飲みにくい際は、補助食品を提供している会社のホームページで飲み方の工夫やアレンジがのっていることもありますので、参考してみてください。市販購入が可能な栄養補助食品にはドリンクタイプやゼリータイプがあったり、数種類のフレーバーが販売されていることもありますので、自分のお気に入りを見つけてみてください。

★「食べなければいけない」という義務感をもってしまわないこと、食事のハードルを下げるのがポイントになります。

管理栄養士 鈴木澄花

「がん患者サロン」のご案内

当院で治療中・治療後の患者さんおよびそのご家族を対象に、2号館1階の医療連携福祉相談室で毎月開催しております。自身の体験や思いを語り合う場として是非、ご活用ください。参加いただいた方からは、「皆さんと話をしたら気が楽になった」などの感想をいただいております。参加申し込みは不要で、出入りも自由ですので、お気軽にご参加ください。詳細は、病院内掲示ポスターもしくは病院ホームページをご覧ください。

がん相談支援センター

「がん」について、お気軽にご相談ください

「がん診療連携拠点病院」には「がん相談支援センター」が設置されています。

当院では、社会福祉士・看護師が相談に応じます。必要に応じて、医師・薬剤師・管理栄養士等と連携して、お話を伺います。

〈相談例〉

- がんと言われて頭が真っ白になってしまい、誰かに話を聞いてほしい。
- どのように治療に取りんだらよいでしょうか？
- がんの治療ってどのくらいお金がかかりますか？
- 仕事を続けるのは無理でしょうか？
- 介護が必要になったらどうしますか？
- 緩和ケアについて知りたい。

など

セカンドオピニオンについては、「紹介患者センター」で相談に応じることができます。(医療機関検索・相談方法・費用・予約について)

がん相談支援センター

案内図

2号館1階 医療連携福祉相談室

時間/月～金(祝日・年末年始を除く)

8:30～17:15

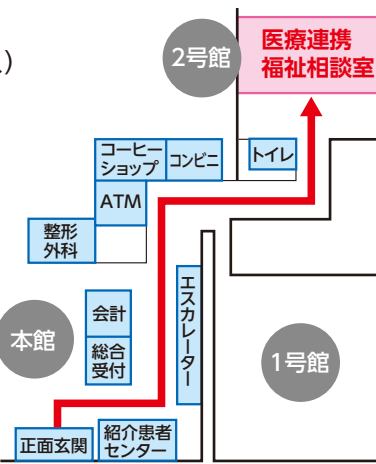
連絡先/0479-63-8111(代)

内線2150・2151

相談は無料です。

※なるべく予約していただくことをお勧めしています。

※当センターで医師と直接お話をすることはできません。社会福祉士・看護師がお話を伺い、医師にご相談内容をお繋ぎすることは可能です。



ハローワーク出張相談

ハローワークスタッフが当院で個別に就職のサポートをします。治療のために仕事を辞め、就職を希望されている方や、仕事の継続を希望の方、治療のため就職準備が難しい方などぜひご相談ください。

日/ち: 毎月第2水曜日

時間: 10:30～14:30の間で3人まで(事前要予約制)

場所: 医療連携福祉相談室 費用: 無料

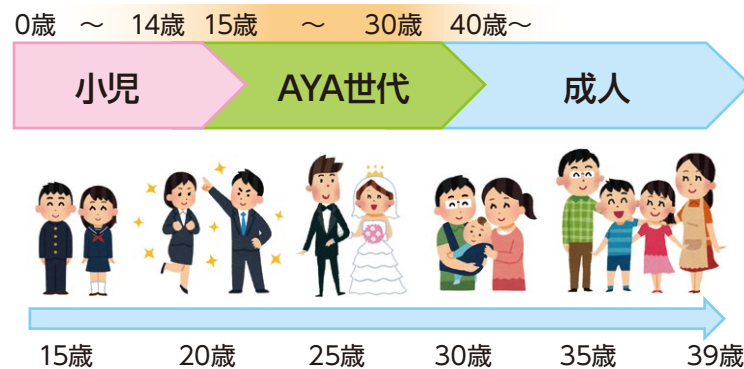
申込み: 前日の15:00までに医療連携福祉相談室で直接申し込むか、お電話でお申し込みください。

不安を一人で抱え込んでいませんか？

一人で悩まず、勇気をもって誰かに話してみよう

1 AYA世代とは

AYA世代は、多くの人にとって親からの自立、生活の中心が家庭や学校から社会での活動に移行するなど、役割が大きく変化していく時期となります。ライフステージが変化するこの時期は、就学・就労・恋愛・結婚・出産・子育てなど、様々なライフイベントを迎えることもあり、多くの悩みを抱えていることもこの世代の特徴の一つです。



2 AYA世代の悩みや不安(一部)

●学校や仕事のこと

- 治療しながら学業や仕事を両立できるのか
- 体力がなくなってしまう、学校や職場での生活がうまくできるのか



●友達や恋愛のこと

- 治療によって容姿が変わってしまい、友人や恋人にみられたくない
- 治療しながら交友関係や恋愛を継続できるか



●結婚や出産・子育てのこと

- がんと診断され、治療していくのに結婚してよいのか

- 将来、出産を考えているが治療をしてもだいじょうぶなのか

- 治療しながら、子育てができるのだろうか

●お金のこと

- 治療費や入院・通院などの費用がたかさんかかる

- 仕事ができないときはどうしたらよいのか



●副作用や晩期合併症のこと

- 治療による副作用が心配
- 治療が終わってから、身体にはどのような影響があるのか

3 AYA世代がん患者サポートチームに相談してみよう

AYA世代の多くは標準的ながん治療による苦痛に加え、前述したような多岐にわたる様々な悩みや不安を抱えています。AYA世代は、人生の中でも、将来性があふれる一方で、まだ未成熟な一面もあり、非常に不安定な時期ともいわれています。このような不安や悩みを、受け入れがたく、他者へ相談できず、孤立してしまうことも少なくありません。

AYA世代がん患者サポートチームは、医師・看護師・薬剤師・公認心理師・社会福祉士・管理栄養士・理学療法士の多職種からなるチームです。どのような悩みでも一人で抱え込まず、チームにご相談ください。各専門スタッフが患者さんやご家族に寄り添い、AYA世代の成長する力を大切に、一人一人に合わせた個別性の高い支援を心がけています。

チームによる支援をご希望される方は、主治医にご相談ください。



AYA世代がん患者サポートチーム 足田智之

当院の治療や医療のご紹介

多面的な治療で、患者さんを支えます

手術療法について

手術療法とは、がんを切り取って治す治療法です。がんを完全に治すための治療法として、ほとんどの場合手術療法が選択されます。

手術はからだに負担のかかる治療法ですので、これなるべく軽くするためにいろいろな手術が開発されています。胃カメラなどの内視鏡による手術では、皮膚にメスを入れることなくがんを切除できます。また、腹腔鏡や胸腔鏡による手術では、従来の開腹や開胸による手術に比べてずっと小さな傷でがんを切除することができます。

現代の手術療法は、チーム医療として行われます。たとえば、手術に加えて抗がん剤や放射線を併用する場合は、外科・内科・放射線科が一緒に治療にあたります。また、術前の準備段階から術後の回復期まで、外科医・麻酔医・看護師・薬剤師・理学療法士など多くの職種の人たちがチームとして診療に加わり、患者さんが安全に手術療法を受けられるような体制が作られています。

緩和ケアについて

緩和ケアとはがんに伴う身体や気持ちの問題について、病気の治療だけでなく社会生活なども含めて全人的に患者さんを支える医療のあり方です。

世界保健機構 (WHO) では、緩和ケアはがんと診断された早い時期からがん治療と平行して行われるべきものと言われています。

患者さんが自分らしい生活を保つことができるよう、医師・看護師のほか薬剤師・医療ソーシャルワーカー・理学療法士・管理栄養士が協力し、患者さんご家族に様々な支援を行います。

緩和ケアセンター

放射線治療について

X線や放射性物質が出すビームを利用して、手の届かないところに治療ができるという特徴があります。各診療科、画像診断部門と協力して問題を見つけ、解決を目指しています。

●外照射

- 一般的な外照射 (ほぼ全身が対象、根治・緩和)
- 高精度治療 IMRT 強度変調放射線治療 (前立腺癌、頭頸部、子宮癌術後など)、定位放射線治療 (脳腫瘍、肺癌、肝臓癌など)

●腔内照射 (婦人科腫瘍)

●内用療法 ゾーフィゴ注 (骨転移)、ゼヴァリン注 (悪性リンパ腫)

放射線科 (治療部門) 太田

化学療法センターでの治療について

「手術」「放射線治療」と並んで、がん治療の3本柱のひとつに「化学療法」があります。近年、新しい抗がん剤の開発や副作用を軽減する支持療法の進歩などにより、治療効果が向上し、標準化された化学療法が適用されるようになりました。このように有効な化学療法を多くの患者さんが受けるようになり、生活の質 (QOL) が重視されるようになったことから化学療法は外来治療が中心となり、安全で質の高い医療の提供の場として化学療法センターが設立され全科の治療がここに集約されています。化学療法センターの病床数は40床 (リクライニング8、ベッド32) あり、スタッフはがん化学療法看護認定看護師1名を含む看護師7名と医師1名が常駐しています。1人の患者さんを包括的に支えていく上での治療やサポートの質を高めるために医師、看護師、薬剤師、栄養士、歯科衛生士、リハビリ療法士によるチーム診療を行ない、すべての患者さんに満足していただけるよう心がけています。

化学療法科 中村